

九州ゐのはな会

谷川 久一

九州ゐのはな会の発足は、古寺秀喜 (S. 22)、森永宗雄 (S. 22)、西高広 (S. 23)、田代豊一 (S. 24) などの諸先生の御尽力により、昭和55年11月、会員数51名で発足し、事務局を谷川久一 (S. 32) において今日に至っております。初代会長の古寺先生のもとで、第1回の会合を福岡で開催して以後、年1回の会合を福岡と九州の各県で交互に今日まで20回開いてまいりましたが、本会にご尽力戴いた古寺先生御他界の後には、私がその会長を仰せつかり、現在に至っております。古寺先生は日本臨床内科学会の会長も務められた臨床家としても尊敬すべき方でした。また平成5年より田代先生編集長のもとで会報を出しており、現在第6号まで出しました。

この会の発足当初は貫文三郎 (S. 3、九大名誉教授、薬理学)、友永得郎 (S. 3、長崎大学名誉教授、解剖学)、安中正哉 (S. 5、長崎大学名誉教授、解剖学)、などの大先輩がおられましたが、いずれも御他界され、さらには本会の中心であられた古寺、森永、西先生も御他界され、淋しい限りです。森永先生は、かつては中山外科の名医局長をされたと聞いておりますが、本会でも大いに会を盛り上げて戴きました。古寺、森永先生の御息はいずれも久留米大学の医学部を卒業され、私の教室 (久留米大二内) で研鑽された後、現在おふたりとも父君の跡をついで立派に開業をしておられます。このような中、竹内辰五郎先生 (S. 22) が広島より九州の地に移って来られ、中山外科出身にふさわしい元気な姿でおられるのは嬉しい限りです。

石川哮先生 (S. 35) は熊大の耳鼻咽喉科の教授をおつとめの後、日本アレルギー学会の理事長もつとめられておられましたが、昨年、残念ながら御他界されました。先生の奥様の美智子先生 (S. 33) は、私の家内 (谷川章子) と同期で、奇しくも熊本、久留米とこの地に定住しております。

また思い出として残るのは、矢野明彦先生 (S. 47) で、長崎大医動物学教授をお務めの後、千葉に帰学されましたが、昨年御他界されました。まだまだこれから更に発展される方でした。先生は九州が好きだと常に言っておられ、残念でなりません。

その他、小出紀先生 (S. 29) は産業医科大学の病理を担当され、定年まで北九州におられ、同大学

の副学長もおつとめでした。また宮内好正先生 (S. 30) は、熊大第一外科の教授としておよそ14年間おつとめになり、その間、熊大における心臓外科を立ち上げられました。また千葉胤道先生 (S. 39) は佐賀医大の解剖学の教授の後、母校に帰学されております。また、津金澤督雄先生 (S. 34：法医学) が鹿児島大学で活躍されました。また、現在、大学関係で活躍されておられる方々は、産業医大の金澤保教授 (S. 55：寄生虫学)、長崎大学の江石清行教授 (S. 57：心臓血管外科学)、さらには千葉大学の神経内科の助教授であられた山田達夫教授 (東京医歯大, S. 49) は、坪井義夫先生 (S. 61) と共に福大内科で活躍されています。また、高橋三津雄先生 (S. 61) が福大薬学部薬物治療学を担当しておられます。

県別に見てみますと、福岡県では、織田悦子先生 (S. 44) は中間市立病院院長をおつとめでした。また矢加部茂先生 (S. 48) が国立病院九州医療センター小児外科医長として御活躍です。

佐賀県では、山口國行先生 (S. 37) は中山外科の御出身で佐世保で外科をご開業ですが、同時に医師会での重鎮でもあります。

大分県では、仙波武臣先生 (S. 9) はお亡くなりになりましたが、12名もの方々が、それぞれ活躍されております。

宮崎県では、森下博夫先生 (S. 19) は、ますますご健在で、「あうさきるさ」という素晴らしい本を出版され、また難波清先生 (S. 57) は乳癌の診療で全国的に活躍されています。

さらに鹿児島県では来仙隆先生 (専18) を筆頭に頑張っておられ、最近では田代豊一先生 (S. 24) も近年同県におられますが、先生は中山外科をはじめ、九大外科、米国などで活躍され、英語の達者な方です。最近、私の出身の千葉大一内科出身の田川まさみ先生 (S. 56) が鹿児島大の医科教育の教授として赴任されました。御活躍を期待しております。

以上のように、九州は千葉から離れた地であり、同窓会員も60名余と少ないのですが、それぞれの場で皆、活躍されていることがおわかりかと存じます。私自身も2～3年の予定で千葉に帰学する予定

第4章 同窓の発展

が、現在まで九州の地にいるものであります。私の久留米大学内科での教授21年の間に、計400余名の教室員と一緒に研鑽し、現在、私の門下生の中で7名もの教授が誕生しています。

なお、この2～3年、残念ながら九州ゐのはな会

の会合を開いておりませんので、近々有志の方々にお集まり戴いて、これからのあり方を検討したいと思っております。

(たにかわ きゅういち)

九州ゐのはな会会報

(第6号)



平成13年(2001年)

九州ゐのはな会会報(第6号)

目次

1. 序文	田代 豊一(昭24年卒)	1
2. 母の金蓮花	桜井 清(昭19年卒)	2
3. 凌霄花	桜井 清(昭19年卒)	4
4. 日本人(モンゴロイド)の育児とネオテニー		
	古寺 秀彦(昭22年卒)	6
5. 庭木の手入れ	田代 豊一(昭24年卒)	8
6. 肝臓の撲滅を目指して	谷川 久一(昭32年卒)	10
7. 3度目のローマ	谷川 久一(昭32年卒)	15
8. 熊野路	谷川 章子(昭33年卒)	16
9. 漢方・千葉大・九州にひかれて	三浦 忠道(昭53年卒)	17
10. 九州ゐのはな同窓会経過		19
11. 第17回九州ゐのはな会報告		20
12. 九州ゐのはな会会計報告		21
12. 九州ゐのはな会会員名簿		22
13. 編集後記		30

(表紙の写真は千葉大学元附属病院(写真提供:田代 豊一))

九州ゐのはな会会報(第6号)平成13年(2001年)